



小児COVID-19の総括

近郊の田んぼでは稲刈りが終わり、季節の移り変わりを感じます。先日、**小児COVID-19パンデミック**と題した講演会がありました。その講演会の内容の一部をご紹介します。

2020年1月から世界で流行したCOVID-19。世界では**2023年7月の時点で、6.87億人が感染し、689万人が死亡**しています。COVID-19による世界の死亡率は**1.03%**なります。日本では2023年5月時点で**3380万人が感染し、74500人が死亡し、死亡率は0.23%**でした。世界と比較すると日本の死亡率は非常に低く、この結果からは日本のコロナ感染対策はかなりうまくいったといえるのかもしれませんが。

小児(20歳未満)のCOVID-19はどうか。感染者は**835万人**、そのうち死亡したのは**60人**。死亡率は**0.001%**で、小児COVID-19は、成人と比べて軽症で重症化するケースは稀という結果でした。抗体保有割合から、**1200万人(小児の4人に3人)の小児が感染した**と考えられており、**400万人弱は無症状か検査せずに終わった**ということになります。また、小児のCOVID-19は、**第6波(2022年1月～)のオミクロン株になってから急増し、97%は第6波以降の感染**だったそうです。

口内炎があるときの食事は？

現在流行している手足口病は、口内炎がひどいお子さんが多いようです。どんな食事を与えればいいでしょうか？

口の中が痛くて食べられない時は無理して食事をさせる必要はありません。脱水にならないように水分だけはしっかり摂らせてください。少しとれるようになったら、ゼリー、牛乳、野菜や肉・魚をたっぷり入れたスープやシチュー、野菜や果物をミキサーにかけたスムージー、お粥や柔らかく煮たうどんなどがおすすめです。

熱すぎるもの、冷たすぎるもの、酸味があるもの、辛いものは刺激が強いので避けてください。



10月の感染症情報

手足口病が10月に入り再び急増しています。1医療機関の1週間あたりの報告数は30人を超えています。マイコプラズマ感染症も増えています。マイコプラズマは呼吸器感染症のひとつで、病状は軽症から肺炎にいたるまで幅広いのが特徴です。学童で発熱、咳があるときは、病院を受診するようにしてください。インフルエンザ、コロナの発生はほとんどありませんでした。



10月の利用状況

10月の利用延べ人数は107人、1日平均利用人数は4.8人でした。年齢別では、1歳児が30人で最も多く、ついで2歳児の26人の順でした。疾患別では、9月と同様に手足口病の入室が55人で最も多く、全体の半分を占めていました。それ以外では、急性上気道炎36人、急性気管支炎13人となっていました。手足口病の猛威がおさまりません。コロナ禍で毎年流行していた感染症の発生がなかったせいで免疫のないお子さんが蓄積していたことが、今回の大流行になっているものと思います。

11月に入り、さすがに朝晩は寒くなってきました。体調管理にはくれぐれもご留意ください。